

八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第1回会議 議事録

開催日時	平成 27 年 7 月 21 日(火) 午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分まで	開催場所	別館 B 会議室
出席者 (敬称略)	(1号委員) 福野幸央、平本なるみ、古庄正登、小林よし、齋藤勝 (2号委員) 多賀谷一照、仲田政司 (3号委員) 野口ノリ子、宮弘美		
欠席者 (敬称略)	右川清夫(1号委員)	傍聴者数	4人
審議内容及び審議結果の概要	八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第1回会議 1. 開 会 2. 会長の選出及び会長の職務を代理する委員の指定について 3. 審議会の公開について 4. 諮 問 5. 市長あいさつ 6. 報 告 (1) 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について (2) 定住等に関するアンケート調査結果(速報)について (3) 人口動向分析の結果について 7. 議 事 (1) 人口の将来展望について (2) 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標案について 8. その他 9. 閉 会		
提供資料	八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第1回会議 次第 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿 資料1 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会規則 資料2 八潮市附属機関の会議の公開に関する規則 資料3 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について 資料4 定住等に関するアンケート調査結果(速報) 資料5 人口動向分析の結果 資料6 人口の将来展望 資料7 八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標案について 資料8 第5次八潮市総合計画(案)における主要事業一覧 参考資料 第5次八潮市総合計画案 議事へのご意見について		

【議事詳細】

八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第1回会議

1. 開会
2. 会長の選出及び会長の職務を代理する委員の指定について
委員自己紹介
(事務局)出欠状況を報告(1人欠席)
仮議長に出席委員の中で年長者の齋藤委員を選出
仮議長の進行のもと、推薦により多賀谷委員を会長に選出
多賀谷会長あいさつ
会長の指定により、福野委員を副会長に決定
福野副会長あいさつ
3. 審議会の公開について
会議を「公開」とし、議事録については氏名を伏せて公表することとした
4. 諮問
大山市長から多賀谷会長へ諮問を行った
5. 市長あいさつ
大山市長あいさつ
6. 報告
 - (1)八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - ・ 事務局から、八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要や策定体制、スケジュールについて説明した。
 - ・ (会長)ただいまの説明について意見はあるか。
 - ・ (意見なし)
 - (2)定住等に関するアンケート調査結果(速報)について
 - (3)人口動向分析の結果について
 - ・ 事務局から、定住等に関するアンケート調査結果(速報)及び人口動向分析の結果について説明した。
 - ・ (会長)ただいまの説明について意見はあるか。
 - ・ (意見なし)

7. 議事

(1)人口の将来展望について

- ・ 事務局から、人口の将来展望について説明した。
- ・ (会長)ただいまの説明について意見はあるか。
- ・ (会長)国立社会保障・人口問題研究所の推計値には、土地区画整理事業による開発の影響が見込まれていないとのことであるが、それが一般的なのか。土地区画整理事業を行ってもそれほど人口が増えないと見込んでいるということか。
- ・ (事務局)開発の影響による人口の増加は日本全体に与える影響としては大きくないため、今回の推計では、見込まれていない。ただし、八潮市に地域を限れば、人口変動の大きな要因のひとつであるものと考えている。
- ・ (会長)過去の経緯から見ると、開発により順当に人口が伸びてきている。一方で、開発計画を立てても、その通りには人口が伸びない場合もあることを考えると、10 万人を目指すというのは、強気な計画である。
- ・ (委員)人が転居する大きな要因は、「就職」・「結婚」・「子育て」の時期だろう。その中で、一番定着する機会となるのは、「子育て」時期だと思う。八潮市に住んで、嫌だと思った時点で出て行ってしまふ。現状では、20～40 代という幅広い世代で転入傾向にあるようだが、どの世代を対象に定住化に向けた政策を実施するかが重要だと思う。定住等に関するアンケート調査結果を見てみると、35～40 歳くらいまでに転入する方の割合が東京特別区に比べて、八潮市は少ないように感じた。そうすると、子育てに重点を置いて進めていくことが、定住という意味では効果的ではないかと感じた。
- ・ (委員)子どもがいなければ、人口は増えていかない。現状の八潮市で、子育てをするときには、施設が足りない。病院も、産科がないために出産できない。そういったものを増やさない限りは、子どもは増えない。そういった八潮市の現状に気づいた人が転出しているのだろうと思う。
- ・ (副会長)資料4「定住等に関するアンケート調査結果(速報)」は、示唆に富んでいる。「交通の便」や「子育て環境」、「医療・福祉」、「治安」などの居住地に求める条件として割合の高い項目に重点的に取り組んでいけば、人口も増えていくのではないかと思う。「学校教育の質」は若い母親などからはよく聞かすが、意外と重視されていない。いずれにしろ、市民の正直な意見なので、重視してほしい。現在の区画整理の手法で、果たして人口が増えていくのかという疑問がある。銀座の街などを歩いていると、建物の高さ制限を緩和して、開発を進めている。八潮市も交通の利便性が高いので、大きな土地をもっと効果的に開発できるように、高さ制限を緩和して住宅と商業施設が併設された大型の建物が建築できるようにするなどの開発手法も考えなければならないのではないか。

(2)八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標案について

- ・ 事務局から、八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略における基本目標案について説明した。
- ・ (会長)基本目標1「産業の振興(仮)」について意見はあるか。
- ・ (委員(代読))市役所や駅前出張所では、市内製品の展示を行っているが、出店事業者の受注機会拡大には結びついていない。他自治体の商工会などが開催する大規模な産業展に出店すると想定以上の反響を得られるので、市内事業者の受注拡大に結びつくような取り組みを行ってほしい。
- ・ (委員)アンケート結果の「八潮市へ来訪を促す仕掛け」に関する項目で、「河川を活用した水に親しめる環境」というものがある。八潮市では、中川を中心とした河川敷の占用許可を得て、八潮市観

光協会が管理している。今年は「水辺の楽校」ができ、「川の駅」の知名度が高まってきた。様々な取り組みを行っていきたいと考えているが、そのひとつとして、「水辺の楽校」を利用して結婚式をしたい。船に乗って島に上がり結婚式を行う。披露宴はバーベキューでもよいのではないか。若い人たちが自由に形式にこだわらない結婚式を挙げられるようになれば、少子高齢化対策にもなるだろう。そのためには、和船と TENT を含めた 50 組程度のバーベキューセットがあればよいと考えている。バーベキューは一年中人が集まるので、イベントではなく事業化していききたい。フラワーパークは、春は「花桃」、秋は「コスモス」が咲くが、夏と冬にも咲く花を植えて、一年中花を楽しめるようにしたい。八潮市に来てもらえるような仕掛け作りをしていきたいので、協力いただきたい。

- ・ (委員) 農業について、収入を安定させるには、大規模な農業でなければならない。直売所なども、人手はかかるが十分な収入が得られない。親の大変そうな姿を見ると子どもはあとに続かない。もう少し、宣伝ができればよいのかもしないが、現状はそうではない。
- ・ (委員) 最近、結婚しない人が多い。いろいろな仕組みなどをみんなで考えていかなければならない。
- ・ (委員) 八潮市は工業が主要産業であり、つくばエクスプレスが開通する以前は、八潮市のよさは、住まいと職場が非常に近いということだった。一方、つくばエクスプレスができて、工場に勤めていない方が八潮市に住み始めた。だからこそ、人も増えている。工業に支えられているからこそ、そこに住んでいる人たちは満足感が高いのかもしない。一方で、人が増えると、工業が危険なものへと認識が変わってきている。もう少し、事業を拡充したいと思っている事業者などもいるが、土地の価格が上がっているし、十分な広さも得られない。遠いところに移転するとなると、社員がついてきてくれるか不安だという声も聞かれる。八潮市全体を眺めたときに、職場をもう少し拡張できる場所をどこかに求められないだろうか。駅により近い地域は住居・商業系が集中するエリアとして、駅から離れた地域に工業が大きく使えるエリアをうまく確保できれば、職住近接のよさを保ちつつ、新しく入ってきた方も危険ではないという意識で住めるのではないか。
- ・ (会長) 基本目標2「八潮市の魅力発信(仮)」について意見はあるか。
- ・ (委員) 観光協会と商工会が、春夏秋冬に1つずつ「4大まつり」を実施しており、合計で約 40 万人が来訪している。経済効果は大きいので、こうした取り組みへの後押しをお願いしたい。「4大まつり」のうち、冬の「農業祭」にもう少し力を入れたい。八潮市の特徴は何ですかと聞かれたときに、四季折々のまつりを八潮市の目玉にしたい。
- ・ (委員) 花桃まつりは、いい財産だと思うが、規模が小さくもったいないと感じている。中川はよい素材なので、もっと延長して整備できないのかと思う。農業については、枝豆がすごくおいしくて、よくJAに買いに行く。しかし、草加市や越谷市の宣伝の仕方がうまいのに対して、八潮市はおとなしいように感じる。テレビの影響は大きいので、テレビ等で宣伝する方法はないか。テレビで宣伝してもらえると、八潮市に他の地域から訪れてもらえる。まずは、八潮市に住まなくても、外から来てもらいたいと考えている。そのためには、人材の育成が必要であり、特色ある人材を育てるとよいと思う。八潮市には、枝豆や小松菜などいいものがたくさん眠っているので、それを掘り起こしてもらいたい。
- ・ (委員) 「枝豆感謝祭」や「はぴベジ博」なども後押ししてもらって、継続していきたい。
- ・ (委員) 一軒でもいいので、有名になると、波及効果で八潮市の認知度が広がるのではないか。

- ・ (委員)ブランド作りをしていきたいが、商品開発まで行きついていない。
- ・ (委員)やはり宣伝が足りないのだろう。
- ・ (委員)枝豆にもいろいろな種類があり、何を育てるかなどは農家の人に任せきりで、ブランド化にまで至っていない。選ばれた品種を統一して栽培するなど、農家と一緒に取り組まなければならない。
- ・ (会長)八潮市にはどういう魅力があるかを、首都圏の人にもどう知らせるかということについてであるが、テレビという手法はなかなか難しい。情報発信の場として、鉄道に乗っていて町並みが見えたり、一般道を走っていて看板等が見えたりすることがあるが、つくばエクスプレスでは、町並みを見ずに通り過ぎてしまうために、情報が伝わらない。そこをどうするか。情報発信には大きく2つの方向性が考えられる。1つは、誰でも簡単に手に入れることができるような情報発信の仕方、もう1つは、あえて情報を制限し、現地に行くなどしないと現物を入手できないような、貴重さを演出する情報発信の仕方である。魅力のある商品であるというイメージを仕立て上げることも戦略である。
- ・ (委員)やしお駅前公園の活用の仕方によって、八潮市の魅力が出せると思う。そのため、会場を1年中利用できるようにイベントを仕掛けていきたい。ビアガーデン等、あの会場に行けば何かやっているということを仕掛けていきたい。ライブをしたい人などの発表の場としても使ってもらえれば、そうした人たちの仲間も集まるだろう。中川河川敷とやしお駅前公園を八潮市の魅力として発信していきたい。
- ・ (委員)八潮パーキングエリアをもっと活用できないのか。八潮パーキングエリアは、車を使われる方の拠点となっているので、そうしたところがうまく使えるとよいと思う。
- ・ (委員)八潮パーキングエリアには市とは別の所有者がいるので、勝手にイベント等を行うことはできない。
- ・ (委員(代読))「水辺の楽校」のほかに、「綾瀬川ビオトープ」がある。こちらを観光施設として検討することはできないか。
- ・ (会長)基本目標3「子育て支援と教育(仮)」について意見はあるか。
- ・ (委員)とにかく産院がなければ、子どもは産めない。
- ・ (委員)幼児に対しては、子育てサロンがあるが、小・中・高・大学生の居場所が八潮市にはほとんどない。「わんぱる」があるが、遠い子に行くことができない。八潮市には児童館がないために、八潮市を離れて行ってしまう人は多い。既存の施設でもなんでもよいので、子どもたちが集える場をつくってほしい。
- ・ (副会長)中央病院ができるが、産院はできないのだろうか。青少年の居場所づくりについては、学校など空いているハードはあるので、金をかけろということではなく、ソフトでカバーすることは重要なことだと思う。
- ・ (委員)八潮市には、八潮市青少年健全育成審議会という組織がある。そこでは、様々な地方の施設なども視察に行っている。新しく施設をつくるということではなく、空いてしまった施設を使うなどの方法もある。八潮市青少年健全育成審議会等と連携して進めてほしい。
- ・ (委員)待機児童がいまだにいる。育児休暇が終わるとどこかに子どもを預けなければならない。また、生まれた月によっては、受け入れ期間が半端であり、どこかに預けなければならなくなる。そういった面をフォローしなければならないのではないかと。

- ・ (会長)基本目標4「地域づくりと安全・安心(仮)」について意見はあるか。
- ・ (会長)アンケート結果などを見ると「防犯」が課題となっている。八潮市でも、町会などの従来の地縁型の社会に、新住民が入ってきており、双方をどう結び付けていくかということは、大きな課題になると思う。それらは「治安」には不可欠な要素である。
- ・ (委員)八潮市では、子ども会がとても活発に活動していたのに、今では消滅していつている状態である。子どもたちと地域の人たちとのつながりは減っていつているのではないかと思う。
- ・ (副会長)保護者の考え方が変わってきているところもあるのだろう。子ども会を運営する保護者の人数が少ない地域は、町会の人々が協力して組織を運営するなどしなければならない状況である。八潮市は、殺人事件なども多い。そういったものをなくさなければ、新聞などで報道されて、物騒だと思われるまいだろう。警察に頼んだり、市役所で監視カメラをたくさん設置するなど、防犯体制を強化してもらいたい。
- ・ (委員)変質者も多い。パトロールなども実施しているが、もっと力を入れるべきではないか。
- ・ (委員)子ども会については、時代が変わり、親がほとんど働いているので難しいと思う。地域コミュニティができたと思う。地域の活動については、市全体から広めようとしても難しい。各地区の町会が主体になって、地域の人々が親しみやすいリーダーの人材育成をすることが重要である。子育てについても、子育てというと幼少時しか浮かばない人も多いが、その後も続くものであり、子どもが成長したときに、非行等に走らないような教育、きちんと就職できるための教育などが必要であり、教育が基本だと思う。どの分野においても、引っ張っていくリーダーを育てることが重要ではないか。また、今、学校は自由に使えないが、遊べる場所が少ないので、広い敷地を持つ学校が自由に使えないのはもったいない。
- ・ (副会長)学校で勉強しなければならないということを、社会全体で子どもに教えていかなければならない。今の親は、子どもをほったらかして、親同士で遊び歩いている。「親が子どもをきちんと勉強させて基礎的な学力をつけさせる」という認識を親自身が持たなければならない。そうした親の割合を増やしていくことが必要であり、それが地域の教育である。そういう環境をどのようにしてつくるかが大切である。
- ・ (副会長)まつりは、地元で地道に実施するのも大切なことであるが、もう少し外からも注目されるようなものも企画した方がよい。
- ・ (会長)PR力の問題である。お祭りをやっているだけでは、他でも同じようなことを実施しているため、情報発信の工夫が必要だということである。
- ・ (委員)まつりの開催場所に偏りがあり、市の北側など住む地域によっては、まつりに出て行かないという人が多いところも見られる。市民みんなに待ち望まれるようなまつりを実施してもらいたい。
- ・ (委員)まつりの開催場所は、バランスが取れてきている。
- ・ (委員)北部の人たちは誰も来ていないように感じる。それだけ魅力がないのではないかと感じてしまう。
- ・ (副会長)まつりにあまり出て行かないという印象の地域もある。サンバのときには、みんな盛り上がっていた。少しお金をかけてでもあのくらいのものを派手に実施した方がよいのかもしれない。
- ・ (委員)大きい小さいはあるが、まつりは人と人とをつなぐ交流の機会となるため、絶対に実施した方がよい。参加するかしないかは自由であり、自分が関心をもっていかに参加するかが重要である。まつり自体を否定してほしくない。交流のきっかけがない中で、まつりがそのきっかけをつくる。
- ・ (委員)地域でみんなに集まってもらえるような形になればよい。

- ・（委員）地域の人に参加してもらえるような形をつくっているが、地域性など、いろいろな問題があるのは確かである。
- ・（副会長）本日は八潮市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会なので、今までのやり方をどのように打破して、新しいものを生み出すかを考えなければならない。市外の人が来たくするような、すばらしいと認めるようなものをみんなで考えて戦略を練らなければならない。現状のままでは問題があるため、今までの発想を度外視して、どうしたらよいまちになるかを考えなければならない。市役所の人にもそういう気持ちで取り組んでほしい。
- ・（会長）住宅地の開発で当然人口が増えると思ってはいけない。転入してきても定住せず転出してしまったらどうしようもない。その辺の話を詰めていかなければならないと思う。
- ・（会長）みなさんから様々なご意見をいただいたので、今後の総合戦略の取り組みに反映させてもらいたいと思う。

8. その他

（事務局）次回会議は、11月16日（月）午後1時30分から、別館B会議室において開催を予定している。また、本日の議事について意見等があれば、配布した「議事へのご意見について」により、7月31日までに事務局へ提出をお願いします。

9. 閉会

以上